

# CIS プロシージャを有効にする方法の TechNote カスタム 機能

## 目次

[概要](#)

[手順](#)

## 概要

この資料に Cisco インフォメーション・サーバー ( CIS ) プロシージャを有効にする方法をカスタム 機能記述されています。

## 手順

これらはカスタム 機能として CIS プロシージャを有効にするステップです:

ステップ 1.正しいシグニチャでプロシージャを作成して下さい:

```
PROCEDURE PTRUNCATE (  
    IN firstvar INTEGER,  
    IN secondvar INTEGER,  
    OUT result INTEGER  
)  
  
BEGIN  
END
```

ステップ 2.スタジオ > Administration > カスタム 機能へのナビゲートはカスタム 機能として、および PTRUNCATE プロシージャを有効にします

ステップ 3.これらの行をに追加して下さい

C:\apps\cis620\apps\dlm\cis\_ds\_greenplum\conf\ greenplum-2723.capabilities

```
# This is for Carfax - John Batterna  
PTRUNCATE(~any,~any): TRUNC($1,$2)  
PTRUNCATE(~number,~number): TRUNC($1,$2)
```

**注:** CIS 6. 2.7.00.23 を実行するとき、**greenplum-2723.capabilities** を修正して下さい。 同様に、バージョン番号によって一致するファイルを修正する必要があります。

ステップ 4. CIS サーバを再起動して下さい。

ステップ 5.クエリ プランを生成して下さい。

ステップ 6.**重要:** 上はそれがホットフィックス仕様であるので永続性のあるソリューションではないです。たとえばケースで、ホットフィックスを# 23 インストールすれば、CIS は

**greenplum-2723.capabilities** を編集することを覚えていなければ変更を取りません。

このように、この変更パーマネントに作るために合併を正しい **values.xml** ファイルへの変更必要として下さい。このファイルはホットフィックス依存しないです。